

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市国見児童館
2 指定管理者	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 23,390人(前年度比 111.2%) 令和5年度 21,031人 令和4年度 17,169人
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 37,856千円 (38,525千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行による利用情報の提供、外国人が多い地域性を踏まえた翻訳機器の用意等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。 なお、多国籍の児童が在籍しているという地域特性を生かしハラール食対応のカレーと日本のカレーのクッキング、おにぎりやはっと汁などの日本食のクッキング活動を実施するなど食を通して異文化への理解が図られるよう支援した。 また、職員における虐待や不適切な対応を防止する取り組みについてのマニュアル「職員における虐待等の不適切な行為に対する対応について」を作成し、また、児童の人権についての絵本を活用しながら職員会議やOJTにおいて職員間で周知共有し、子どもの人権に十分に配慮するとともに、子ども一人ひとりの人格を尊重して支援が行われている。	20/18

三 評価総括

《指定管理者（労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団）による自己評価》
健全育成事業:五感で感じる体験型。身近にある自然を感じながら川辺の生き物観察。この川の生態系を守っている団体の存在を知りました。廃材を使っておひな様はコマとしても遊べる工作。クリスマスまであと何日？ワクワク・ドキドキしながら作ったアドベントカレンダー。月/1回の「たいけんランド」は毎回定員を上回る人気。みやぎの食材王国「伝え人」に応募、「そば打ち」に挑戦。自ら打ったそばの味は格別でした。 子育て家庭支援事業:子育てするパパ・ママを応援したい、0歳児～2歳児対象の登録制“0ちゃんくらぶ+”は孤立感を感じさせない居場所づくりをお手伝い。茶話会をしながらの工作・簡単なおやつ作り・リトミック等、プロムナードでの水遊びは「自宅でできないことをしていただいて」とママ達から感謝されました。年度末の運動遊びには6組の親子が参加。この日、乳幼児イベントを見学にいっていた青葉区家庭健康課の保健師さんは遊びに興じる親子を見守りながら、相談に応じていました。 地域交流推進事業:事務局として活動した「ゆるっく～地域でつながろうの会」。地域包括の悩みは“集客”。こどもも大人も就労継続支援B型事業所で作成した割りばし鉄砲的あてを満喫。お茶を飲みながら相談もできる「みんな集まれ！ゆるっくひろば!!“カフェと遊び場・相談会”」を開催し、児童クラブが参加。異世代交流と悩み解決の一助となりました。 放課後健全育成事業:“地域先生の発掘と地域を知る”をテーマに、こどもたちの“こうしたい”を実現できた年になりました。裏庭カフェ・七夕飾り・けん玉・地域でのダンス発表を通して、民児協・老人クラブ・市民センター等の異世代交流が希薄になりがちな心の拠り処、「こどもたちを真ん中に地域みんなが集まるあったか交流ひろば」を感じた活動ができたと思っています。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
健全育成事業においては、令和6年度から土曜日に「中高生Time」を設けたり、静かに過ごしたいというアンケートの記載から、館内の使い方を工夫するなど、中高生世代にとっても利用しやすい環境を整え、児童館便りやホームページに掲載して中高生の利用促進に努めている。恒例のたいけんランドでは、工作や館外活動等、様々な体験の機会を提供している。 子育て家庭支援事業においては、年間登録で開催している「0ちゃんクラブ+」は、保護者の要望で対象年齢を1歳児まで拡大し、離乳食クッキングや保護者の工作、季節の行事と共にティータイムも取り入れ、保護者自身のリフレッシュや保護者同士の交流が図れるよう支援している。また、水遊びやシャボン玉遊び、ミニイベント等自由に参加できる行事など保護者のニーズに沿った多彩なプログラムを提供し、地域の子育て家庭を支援している。 地域交流推進事業においては、近隣の関係機関や施設に児童館のイベントのチラシをこども達と届けに行き、イベントのPRと共に児童館事業の認知度向上に努めている。また、地域の老人クラブとの交流が令和6年度に復活し、行事を通して多世代交流を図った。こども達のけん玉が上手になりたいという声に応え、地域の方を講師として迎え「けん玉に挑戦しよう」を実施するなど、児童館が積極的に地域と関わり、こどもが地域と関わりながら育つ環境作りに努めている。 放課後児童健全育成事業においては、企画書を用意してこども達の企画運営で行事を実施したり、「うらにわカフェ」を5日間開催するなど、環境を整えながら実現に向けた支援を行い、こども達の自主性や社会性を育てている。児童クラブ保護者交流会では親子で運動遊びを実施し、児童館でのこども達の様子や成長を共有できる機会を設け保護者との連携強化に努めている。また、多国籍の児童を受け入れている地域特性を生かしたハラル食対応のカレー作りの取り組みを継続しながら、おむすびやはっと汁など日本食や郷土食等を通して日本の食文化を伝える等、食育を通じた異文化交流を図っている点が評価できる。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課